



みんな  
に鳥のわ  
こ目た

の岬  
空のこるさ

之事事無大小悉以答之又能使行陣和睦  
優劣得所親賢臣遠小人

花開人多  
風雨人別  
生是別

風もさ  
新し  
亦

かみとほ

あささ

よみ

ちいつまの

おは空あそ

た、あそ

江横以濯之  
秋陽以暴之

喜壽自祝

自祝の意を表した。それから  
七年、さまがまたなことがあつ

くといふ仕事が行つてゐる。当  
分、死んで左をいられたい。そ

の意を表し、あはせて、長生を  
祈念するところとした。

どうせいつかこのすまび歌です  
が、由笑覽賜りしは幸甚  
です。

昭和五十三年九月二日

那須甚之居にて  
海音寺潮五郎

朝日新聞東京本社

電話東京(212)〇二三番...大代表

水戸市天王町

館竹葉止宿

海音寺潮五郎

夕-22